



大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

新たな可能性と期待に 新生「大谷資料館」が再開！

東日本大震災から閉館していた大谷資料館が、新経営者を迎え4月から再スタート。大谷資料館は、全国から人を呼べる宇都宮を代表する観光施設。地元だけではなく、多くの人が再び会を待ち望んでいました。

大谷資料館の新しい経営者は、大谷町で創業80年の石材業と土木の株式会社大久保です。

「ここは岩盤が固く、大震災の影響はまったくありませんでした。」

私は、商売のためにここを買った訳ではありません。石の町・大谷の拠点とも言えるこの貴重な資料館が売りに出され、東京の企業に動きがあったのでこれは大変だと思ったのです。私たちが地元としては、この地を愛する人でなければ、やはり心配ですから。地元では手を上げる人が誰もいなかったの、私が引き受けた形です。全国でもまれな地下の大空間。この資源を大切にしていきたいですね。

4月から5月上旬で約1万人の来客者が訪れてくれましたが80%の人は県外の人でした。今は東京の世田谷など5カ所の小学校から遠足の申し込みを頂いています。県外の方ももちろんですが、地元の方の多くの人たちが早く見学に訪れて大谷の歴史を知ってほしいという、いろいろな企画をして行きたいと考えています。障害のある方も高齢者にもぜひ訪れて欲しいので、大型バスでそのまま地下空間に入れるようにもしました。先日、91歳の車いすのお年寄りが来館してくださいました。車でそのまま下りて地下を見学していただけたのですが、涙を流して喜んでいただけました。私もうれしかったですね。

道路から入ってくる入口に、大きな駐車場も用意しました。できるだけのんびり景色を楽しみながら歩いてこまできてほしいのです。この岩肌の美しさや壮大さに触れながら、地下空間



「資料館の売店には新しく現帝国ホテルのロビー壁面レリーフを、渡辺哲夫さんに造ってもらいました。ぜひ見てください」
大谷資料館理事長の大久保恵一さん

を見学してもらえればいいと思います。駐車場あたりには、そばやピザ、餃子などの飲食のスポットも作りたいと考えています。景観公園から入ってくる道路周辺もきれいに整備して、大谷一帯を楽しんでもらえるのが一番の願いです。

「草が生えているから、行政がなんとかしてくれ」ではなく、「では、みんなで草刈りをしよう」という地元の精神で、地域みんなが協力し合っている町・大谷をつくりあげていけるのが望ましいですね。地域みんなでそうしていければと思います（大久保さん）。



資料館内部の斜路及び見学用通路階段。壁面は採掘跡の縞模様。



採掘場の巨大な石柱及び壁・天盤。手掘りの採掘肌が美しい。

開館時間 ■9:00～16:30(入館は16:00まで)
休館日 ■無休
入館料 ■大人……………600円(団体…500円)
 ■小人(中学生以下)…300円(団体…250円)
観覧時間 ■約40分
住所 ■栃木県宇都宮市大谷町909
電話 ■028-652-1232

■ Gallery Office An

一級建築士事務所
株式会社 安藤設計 代表取締役社長 安藤 寛樹
〒320-0012 栃木県宇都宮市山本1-3-14
E-mail: andoarc@beige.ocn.ne.jp http://ando-sekkei.jp/
TEL.(028)625-2875 FAX(028)625-3815

住 宇都宮市宮園町8-9
営 平日11:30-14:30 (Lo14:00)
 土日11:30-15:00 (Lo14:30)
 夜 18:00-23:00 (Lo22:00)
休 月曜日
入 5台(無料)
店舗内にコインパーキングもあります。
駐車料金はお客様さまのご負担になります。
T/F.028-638-0409
おしゃらく 検索
http://www.sanyuac.jp/osharaku/
おしゃらく